

展覧会1

令和2年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業

## えひめ視覚障がい者をつくる「みることを考える」プロジェクト



2月6日(土)~3月7日(日)  
新館2階 常設展示室3 入場無料

今年度、美術館では視覚障がい者とともに作品鑑賞することや、視覚だけでなく触覚や言葉、対話、記憶などを用いた鑑賞のあり方を検討する事業を実施しました。

作品鑑賞においては、絵画を鑑賞するための補助となる触図(絵画の構成を凹凸で示したもの)や、立体作品を手でみる鑑賞、作品を言葉で伝える方法、対話型鑑賞の実践などを視覚障がい者の方とともに検討を繰り返しました。また、松山盲学校では触覚での造形ワークショップを彫刻家の中ハシクシゲ氏を講師にオンラインで実施。力を加えた形を考え、粘土に力を加えた形を触覚で確認しながら、これまで経験のない表現を試しました。そのほか視覚障がい者の美術館利用を考えた施設案内の文章や松山市駅からの道のり説明文の作成にも視覚障がい者の方の協力を得ながら取り組みました。

この事業を通して、見えない人、見える人がともに「みる」ことで、互いに違った視点加わり、「みる」ことが充実したものになることに気づかされました。

展覧会「みる冒険」では、この1年の取り組みを報告させていただき、来館者の方にいつもと違った「みる」体験をしていただければと思います。そして、この事業をきっかけに美術館では「みることを考える」取り組みを継続し、多様な見方を広げていくことができると考えています。(石崎 三佳子)



展覧会2

# 大広重展

## 東海道五拾三次 と雪月花 叙情の世界

1月16日(土)~3月21日(日)

《東海道五拾三次》は、東海道の宿場町の様子を四季の移ろいととも表現した歌川広重(1797~1858)の不動の名作であり、雪や雨の効果的な演出は、鑑賞者を郷愁へと誘います。

本展覧会では《東海道五拾三次》全55作の展示はもちろん、広重が晩年に制作した《五十三次名所図会》もあわせてご覧いただけます。同じ宿場町をテーマに描いていても、視点の違いにより、まるで違った景観のようにも映ります。

また《名所江戸百景》より「大はしあたけの夕立」、「亀戸梅屋舗」の2作品も展示します。後期印象派の画家たちに影響を与え、特にフィンセント・ファン・ゴッホが模写をしたことで有名な作品です。

さらに展示室外には《東海道五拾三次》の世界観で写真を撮れるコーナーも用意しております。ぜひお越しください。(青木 朋子)



《東海道五拾三次之内 三島 朝霧》大判錦絵 天保4年(1833)頃 個人蔵



《五十三次名所図会 三島》大判錦絵 安政2年(1855) 個人蔵

展覧会4

# 岩合光昭 いよねこ

## 猫と旅する写真展

2月11日(木・祝)~3月28日(日)

「また、いいネコたちに会えた。」

愛媛で出会った猫たちのことを動物写真家・岩合光昭(1950-)はこう語っています。猫専門の隔月刊「猫びより」の特集のため、岩合は日本全国の猫の取材に飛び回りました。それぞれの土地の風土や人々の暮らしを映し出す、鏡のような存在であることが猫の魅力のひとつと考える岩合が、カメラ越しにみた愛媛の猫たち。これらの猫たちを通して、私たちの生活の中に宿る小さな幸せの数々を改めて発見する機会となることでしょう。

このたびは、世界各地の野生動物の姿をカメラに収め、またNHKBSプレミアム「岩合光昭の世界ネコ歩き」を始め、猫人気の立役者として現在も活躍中の岩合光昭が、愛媛で撮影した猫たちを中心に紹介します。(杉山 はるか)





R2年度アートの森プロジェクト

# 森のなぞ？なぞ美術館

## —ちょっとふしぎな植物観察— 開催報告

美術館では、クリスマスからお正月シーズンの間、ふしぎな「植物園」が開園していました。

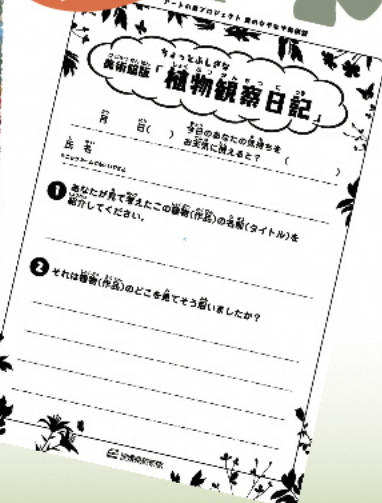
「森のなぞぞ美術館」という小さな展示会では、美術館のコレクションの中から「アート×森」「花のあと」そして「玄冬」をテーマに多様な表現の作品をご紹介しました。展示室でみなさんをお待ちしている「植物たち」のそばには、美術館版「植物観察日記」が添えられ、また今回、県産材を使った額を作成し、えひめの木々に包まれたような空間となりました。ご家族や友達との間で、美術館でのちょっとふしぎな植物観察をお楽しみいただけたのではないかと思います。(鈴木 有紀)



※この展示会は、森林環境税を利用して開催しました。

野間仁(魔法の森)部分 1934年

開催中、活躍した  
ちょっと不思議な  
ワークシート



# 親子ワークショップ

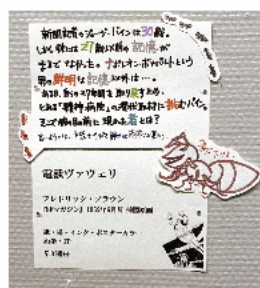
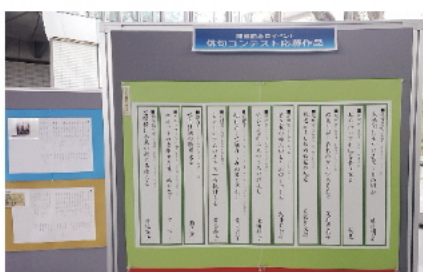
新型コロナウイルスに対応し、安心して参加いただける新しいスタイルの親子ワークショップを始めました。それは材料と道具、制作手順の手引きのセットをお渡しして、参加者だけで創作を楽しむもの。月単位でメニューを変え、提供しています。(石崎 三佳子)



縫ってパジャマ

## 俳句とのコラボ

開館記念日イベントの新たな企画として、「俳句コンテスト—美術館を詠もう—」を実施しました。内容は展示作品を題材とした俳句作品を募集し、コンテストを行うというものです。作品の新たな楽しみ方の発見となりました。(高木 学)



## キャプション

キャプションは、作品の情報や解説を記した重要な存在です。でも、ちょっと専門的すぎる面も否めません。「真鍋博2020」では、職員による手書きのポップキャプションをつけてみました。いかがだったでしょうか？(五味 俊晶)

# 学芸員を目指したor大切にしている1冊!

美術館のなかでも、学芸員はよく分からない存在かもしれません。どんな仕事をしているのか、どんな人物なのか、どんなことを考えているのか—そんな謎多き人々を徹底解剖するコーナーです。

愛媛県史

**土居 聡朋** 専門: 日本中世史  
『愛媛県史資料編 古代・中世』  
(愛媛県、1983年)

きっかけではないのですが、仕事のきっかけになる一冊を紹介。今でもめくるたびに発見があります。



**長井 健** 専門: 日本中世・近世美術  
『絵は語る』シリーズ  
(平凡社、1993~6)

大学で日本美術史を勉強し始めたまさにその頃出版された、錚々たる気鋭研究者たちの革命的論考。



**武田 信孝** 専門: 西洋美術  
『Portraits by Ingres: Image of an epoch』

きっかけの1冊はありませんので、修論執筆時の座右の図録を紹介。厚み4cmで図と文の質量が充実しています。



**高木 学** 専門: 美術教育  
『僕アホやない人間だ』  
(福井達爾 柏樹社、1969)

障がい者支援施設「止揚学園」の様子が描かれており、教育者としての思いに気がかされた一冊。



**杉山 はるか** 専門: 現代美術・西洋美術  
『小学館の学習百科図鑑3 魚貝の図鑑』  
(小学館、1984(1972年))

子どもの頃のアダリ読書。世界を形成するあらゆるものに心惹かれました。



**青木 朋子** 専門: 日本洋画  
『美の巨匠たち』  
東京富士美術館所蔵 西洋絵画400年  
(福岡市美術館、2003)

作品に圧倒されて、初めて自分で購入した図録。



**五味 俊晶** 専門: 日本近世・近代美術  
『いまは昔 むかしは今』  
(福音館書店、1989~99)

全5巻と大部ですが、どのページを開いても発見にみちています。大学時代に読んで、学ぶことの楽しさを教えてくれた本です。



**田代 垂矢子** 専門: 教育普及  
『糸紡ぎのテクニックとデザイン』  
(誠文堂新光社、2020)

アトリエ開設のために染織をはじめ20余年。写真を多用した本を見つけ、今から復習です。



**石崎三佳子** 専門: 教育普及  
伊藤寿朗『ひらけ、博物館』  
(岩波書店、1991)

地域に開かれた博物館の姿を論じた著作。博物館の学びについて初心に立ち返らせてくれます。



**鈴木 有紀** 専門: 鑑賞教育・博物館教育  
『謎の帝国 インカ—その栄光と崩壊』  
(ジョークリット・フーパー(三輪晴香 訳) 偕学社、1978)

14歳の春、学芸員になりたい!と思ったきっかけのきっかけを創ってくれた一冊です。



### つぶやき



#### 新規職員紹介 総務課長 金岡 潤一

美術館に仲間入りして、9か月、意欲的な若さの職員が果敢に挑戦する姿に、モチベーションも上がります。コロナ禍にも、誰もが気軽に文化に触れられるよう、共にスクラムを組んで、時を超えた安らぎの館になればと思います。

### ご利用案内

- 開館時間 9:40~18:00(入室は17:30まで)
- ※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。
- 休館日 月曜日  
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29~1/3が休館日)

### 編集後記



担当の「真鍋博2020」も閉幕し、来年度にむけて少しずつ準備をはじめました。当館のコレクションからも、なかなかユルカワイイ作品が見つかっていきます。うまくいけば初めて公開するものばかり。ご期待ください! (五味俊晶)